

「確かな学力の向上を目指し、見通しをもって学習に取り組む生徒の育成はどうあればよいか」

(3年計画の2年次)

1 研究主題について

前年度の研究の成果と課題は以下のとおりである。

(1) 研究の成果

- ①「発信し、つなげる」をキーワードに、全教員が道徳の授業と教科の公開授業を実施することにより、教師間の指導力の向上と授業改善が見られた。
- ②自力解決と対話交流の場や To Do リストの活用により、生徒たちの学び合いと気づきを大切し、お互いの自己有用感を高め、見通しをもちながら校内行事や探究学習に取り組んだ。
- ③導入や発問の工夫、課題設定の工夫、ICT の活用等により、生徒は「わかった、できた、身についた」を実感し、主体的に学習に取り組むようになった。

(2) 研究の課題

- ①個別の学習支援が必要な生徒に対して、全職員で個々の生徒の特性を生かして、段階的に支援体制を築き、基礎的な知識・技能を習得させる必要がある。
- ②「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図るために、1人1台端末の効果的な活用法が主体的・対話的で深い学びにつながるよう具体的な取組について研修を深める必要がある。
- ③将来の夢や志の実現に向けて、生徒たちが目標を抱き、具体的に行動しようという意識を高めるために、3年間を見通したキャリア教育の実践の必要がある。

2 研究のねらい

確かな学力の向上を目指し、見通しをもって学習に取り組む生徒を育成するため、各教科・領域の特性を踏まえた授業改善を具体的に進め、生徒が主体的に学びに向かうための指導法を研究する。

3 研究仮説

- (1)発問の工夫と見通しをもったわかる授業を展開することにより、基礎的な知識・技能を身につけることができる。
- (2)学習課題を明確にし、協働的に学び合う場面を設定することにより、表現力や思考力を高めることができる。
- (3)生徒間で話し合い活動をさせることにより、自ら主体的に学ぼうとする意欲や態度を育成できる。

4 研究内容

- (1)確かな学力を育むために、教師の授業力の向上を図る。

- ア 授業の導入や教師の発問を工夫することで生徒の気づきを喚起する。
 - イ ユニバーサルデザインについて、全教員が実践内容を共通理解して授業を行う。
 - ウ ICTを活用し、わかる授業づくりを推進する。
- (2) 話し合いを基に一人一人の考え方や意見をつなげ、お互いの「自己有用感」を実感させる。
- ア インプットとアウトプットを積極的に行わせ、自分の考えを確かなものにさせる。
 - イ 興味・関心を高め、問いをもたせるしかけを工夫し、探究的学習に取り組ませる。
 - ウ 自力解決の場と対話・交流の場を通して、他との調和を図りながら自分の考えを述べることを意識させる。
- (3) 夢や志の実現に向け、自己の未来を創り出すことができる生徒の育成を図る。
- ア 全校道徳やキャリア教育を推進することにより、将来の理想の実現に向けた具体的な目標を考えさせる。
 - イ 個々の特性を生かした学習がなされるように、全職員で個別支援の充実を図る。
 - ウ 基礎的な知識・技能を生かし、自ら問題解決に取り組もうという意識を育てる。

5 年間計画

(1) 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	学年・授業者等	全体会等
4	26	授業研究・全校道徳	
6	7	授業研究・全校道徳（3学年担任）	
9	6	授業研究・全校道徳（2学年担任）	
9	27	授業研究（計画訪問）	
10	25	授業研究・全校道徳（1学年担任）	
11	中旬	授業公開（オープンクラスウィーク1）	
11	下旬		授業公開全体会（成果と課題）
12	月上旬	授業公開（オープンクラスウィーク2）	
1	月上旬		授業公開全体会（成果と課題）

(2) 一般研修

月	日	例) 内容・講師・概要等
4	3	校内研修：今年度の校内研修について
4	25	「研修主任会」にて示された「授業づくり」について
5	1	市教育研究指定授業業 特別支援教育講演会 講師：山形大学大学院教育実践研究科 教授 三浦 光哉 氏
6	1	要請一般研修：「個の『問い』の探究を深めるための対話的学習活動・振り返り活動」 講師：未定
10	23	要請一般研修：「基礎的基本的な知識技能の習得のための個別の学習支援」 講師：未定